

カリフォルニアワイン 2025 収穫速報 ～州全体で安定したペースの収穫が進む～

穏やかな気候の生育期が、州全土に高品質な果実をもたらし、ワイン生産者たちは楽観的



カリフォルニアワイン協会 (California Wine Institute、略称 CWI) は、2025 年産ワイン用ブドウの収穫速報を以下のとおり発表しました。

長く、安定した生育期を経て、2025 年のカリフォルニア産ワイン用ブドウの収穫は、順調に進行中です。涼しい春と穏やかな夏が、果実をゆっくりと成熟させてくれたため、州全体のワイン生産者たちの間で、このヴィンテージに対する楽観的な見方が広がっています。

「これまでのところ、2025 年は喜ばしいほどに平穏無事です」と、ソノマ・カウンティ、サンタ・クルーズ・マウンテンズ、パソ・ロブレスでブドウを栽培するリッジ・ヴィンヤーズの最高醸造責任者、ジョン・オルニーは述べました。「天候がこのままもてば、ずば抜けたヴィンテージとなるための適切な条件が整います」。

生育期を通して好天に恵まれ、冬の降雨が土壌を潤した後、芽吹きから結実まで理想的な条件が続きました。場所によって、成熟具合、果房や果粒の大きさにバラツキが多少見られるものの、果実の生育は安定的に進んでいます。

穏やかな気温は収穫期まで続き、深刻な熱波には見舞われませんでした。8 月には、ナパ・カウンティのカリストガ郊外で起きた山火事、ピケット・ファイアが大きく報じられましたが、火災は北東部の狭いエリアに封じ込められています。同カウンティ当局の推定によると、影響を受けたのは地域にある農地の 3%です。

涼しい気候条件により、収穫は多くの地域で例年よりわずかに遅れて始まり、現在は安定したペースで摘み取りが進んでいます。収量の水準は地域によって異なりますが、平年並みか、わずかに下回る見込みです。

総じて、カリフォルニアのワイン生産者たちは、2025 年が凝縮感とバランスに優れたヴィンテージになると期待しており、赤ワインは深みと骨格を、白ワインはエネルギーと緻密さをまとうと考えています。



凝縮感のあるフレーバー、快活な酸味

酸味と、凝縮感のあるフレーバーとのバランスは、州の南北を問わず、2025 年ヴィンテージに共通する特徴です。

「欠かせない入念な選果を経た今、この年ほどフレーバーが強烈なピノ・ノワールを、これまでのキャリアで味わったことがないと感じています」と、ソノマ・カウンティにあるリトライ・ワインズの創設者、テッド・レモンは語りました。

ソーヴィニヨン・ブランやシャルドネといった早熟の品種は、快活な自然の酸味と、透明感のある果実味を示しており、晩熟のカベルネ・ソーヴィニヨンに見られるのは、これからが楽しみになる奥行きと、長期熟成向きの資質です。

セントラル・コーストでは、記録的に涼しい夏が過ぎ、赤ワイン用品種が樹上で成熟を続けるにつれ、造り手たちは素晴らしい色とフレーバーの強靱さを口にしています。

「エレガントでありつつも、果実には逞しさがあります。相当に驚異的なヴィンテージになりそうです」と、パソ・ロブレスにあるロバート・ホール・ワイナリーの業務執行取締役、ケイン・トンプソンは述べました。

カリフォルニア州が誇るジンファンデルの古木も、2025 年ヴィンテージには強く輝きそうで、特にローダイ地域で大きな期待が寄せられています。同地域の涼しい夏は、すべての品種にフレッシュな酸味と生き生きとしたフレーバーをもたらしていて、中でもピノ・グリージョとソーヴィニヨン・ブランが、早い時期には際立っていました。

「醸造家と栽培者の良好な協力関係を通じて、これまでのところ設定した目標通りに、並外れた品質を手に入れています」と、アカンポにあるランゲ・ツインズ・ファミリー・ヴィンヤーズ・アンド・ワイナリーの社長、アーロン・P・ランゲは話しています。

カリフォルニア中のワイン生産者たちが、今までに収穫したブドウの質を褒めたたえる一方で、ナパ・ヴァレーにあるフロッグス・リープ・ワイナリーの創設者、ジョン・ウィリアムズのような造り手は、農夫ならではの慎重さで熱狂を抑えずにはられません。

ウィリアムズは、「過去にも、道半ばで完璧なヴィンテージだと思い、結果そうならなかった年があります。今年も、取らぬ狸の皮算用にはまだ早いでしょう。とはいえ今、たいそう立派な狸が目の前にいるのは間違いありません」と、述べました。

造り手たちが語るヴィンテージ

「収量はどの畑でも満足いく水準で、果実には素晴らしい酸とフレーバーが備わっています。2025 年はまた、高品質な年になりそうです」。

– リッチー・アレン、ロンバウアー・ヴィンヤーズ栽培・醸造担当副社長(ナパ・ヴァレー)

「これまでのところ、品質については極めて好意的に捉えています。あらゆる角度から見て、偉大な新ヴィンテージになりそうです」。

– エリザベス・ヴィアンナ、チムニー・ロック・ワイナリー醸造責任者兼支配人(ナパ・ヴァレー)

「この 3 週間、ゆっくりとしたペースで摘み取りを進めてきていて、思うに果実は最高です。フレーバーは心地よく、バランスが取れています」。

– リー・マルティネッリ・ジュニア、マルティネッリ・ワイナリー & ヴィンヤーズ当主(ソノマ・カウンティ)

「2025 年のブドウは、フレッシュさと深みを兼ね備えたワインになるだろうと、楽観的です」。

– ニキ・ウエンテ、ウエンテ・ヴィンヤーズ栽培業務担当取締役(リヴァモア・ヴァレー)

カリフォルニア州の全域について、2025 年のシーズン終了までカバーした収穫レポートの完全版は、晩秋に再度、当協会より発表予定です。

■カリフォルニアワイン協会(California Wine Institute、略称 CWI)とは
カリフォルニアワイン協会(本部・カリフォルニア州サンフランシスコ)は、1,000 社を超えるカリフォルニアのワイナリー及びワイン関連企業から構成される非営利団体で、ワインの生産や流通や消費に関する政策的な提言を行っています。輸出プログラムにおいては、世界 18 カ国に事務所を置き、世界 30 カ国以上でマーケティングとプロモーションを実施しています。ワイン業界関係者・メディア・消費者向け試飲会の実施などをサポートしており、毎年 185 以上のカリフォルニアのワイナリーが当プログラムに参加、142 か国にワインを輸出しています。日本事務所は、カリフォルニアワインの普及促進、日本市場における関税、非関税障壁の監視などを目的に 1985 年に設立されました。

■カリフォルニアワイン協会公式(CWI)ホームページ(日本語) www.calwines.jp

＜本件に関するお問合せ先＞

カリフォルニアワイン協会(California Wine Institute、略称 CWI)PR 事務局

担当: 今上 貴子(いまうえ たかこ) メール: jpmmedia@wineinstitute.org